

一帯ゆるき

(明治四十年寮歌)

田中義麿君 作歌
高松正信君 作曲

一

一帯ゆるき石狩の
源遠く霞罩め
五彩を染むる夕照は
手稻の夏の栄にして
そこに無限の恩寵あり
是吾校の在る処

二

胡沙吹く風に秋蘭けて
黄葉散りしく牧場千里
満野の吹雪叱咤する
エルムの姿壮なれや
そこに無限の偉力あり
是吾寮の在る処

三

偲へば遠き三十年の
榛莽あしたの日を蔽ひ
ゆふべの月に熊吼ゆる
北海の野に鋤入れて
偉人が植えし桜花
薫は高し千万古

四

海を距てて南の
空の彼方を眺むれば
古人の道は跡もなく
文明の徳は尚成らず
溟濛天に漲りて
帰鳥夕に彷徨ひぬ

五

颯々として風狂ひ
北海の潮黒むとき
電光淒く駛りては
鬼啾々の声すなり
破邪の剣を右手にして
起てるは誰ぞや吾健児

六

岩間に咽ふ溪流も
明日は黄河に波うたむ
蟄竜遂に雲を呼び
鳳雛やがて時を得て
扶揺に搏つて騰りなば
烟囪遂に影もなし